

經濟時評及商況

◎最近工業思潮の三傾向 小島精一

(一) 企業組織の集中的發達

筆者の考ふる處では、世界大戰爭以後産業界には次の三個の顯著なる傾向があると言へる。

第一は組織的、集合的傾向である。工業會社間の財政的協働即ち企業の合同や聯合や利益共同やの多數の實例が其主要なる顯はれである。之は戰時中に巨富を蓄積した者が戰後の不況期に入つて劣等な會社を合併したり、戰後の激烈な競争に優勝するために相互に合同して能率の向上を計つたためである。鐵工業は戰時中何國でも殊更需要が膨脹し、從て生産設備が増大したのであるから、平時經濟への轉換に伴ふて勢ひ右の現象が著しかつた。米國の實例は前號に説明したが英國では政府の任命した特別調査會が從來の個人主義的見地を捨て、協同一致の經營法に移らねばならぬと報告した程で、合同の實例は屢々傳へられて居る。例へば彼のザイツカアス會社の如きはウエスチングハウズを合併して、今日では十餘萬人の職工を使用して居る。又ウワキンギトン鐵鋼會社を中心として數會社が團結して合同製鋼會社(United Steel Co.)を組織した如きは其主なる一例に過ぎない。其詳しい事情に就ては他日調査を遂げて報道し度いと思つて居る。

獨逸の實例に就ては既に本誌上で最近に今泉博士が有益な報道をされて居る。筆者も嘗て(大正十年六月號)稍詳しき

報告を寄せた事がある。合同の多くの實例中異彩を放てるは彼のフォーゴー、スチーネスを中心とするシイメンス、ライン、エルベ、シュカート、ユニオン團である。又從來の鐵、鋼兩組合を打つて一團とし、全國の各種鐵鋼會社を組合員とする強制的カルテル式の組織が出來た事も注目すべき現象である。同國では社會化の問題が甚だ具體的となつたので、有力な企業家は其工場の買收さるゝを恐れて、其豫防策として、頻りに大會社の集合が行はれたとも傳へられて居る。

協働的組織は單に生産設備や國內の販賣機關に就てに止まらず、外國貿易の振興上にも強く慾漸されて居る。獨逸には一九一八年に半官的輸出貿易會社が出來、英國には同じく全英産業聯合が出來、米國にても聯邦商業委員が輸出貿易促進のためにはカルテルの有效なるを主張しが結果同年四月にウエーブ法が發布されて、輸出貿易に從事する場合に限り、組合を許す事になつた。之は同國に二十五年間實施され來つた排トラスト法に對する重要な例外である。一九二〇年にユー、エス會社以外の主なる大鐵鋼會社が聯合して共同的貿易會社を組織したのは此法制上の變更の結果である。ざつと右の通りで各國共企業の規模が大となつたのは言ふ迄もないが各種の協働的集合的組織が盛に歡迎されて居る。

(二) 民主的思潮の擡頭

次に最近の顯著なる第二の現象としては民主的思潮の擡頭を擧げねばならぬ。此勢ひは單に一般勞働條件の改善運動より進んで産業の管理運動に迄及んだ。工場委員制度利潤分配制度は先進國では概して例外なく行はれて居る。伊太利や佛蘭西に於ける企業管理參加の實例や、英國のホイットレイ委員會組織や進んで獨逸に於ける或種重要產業(鐵工業、石炭

業、電氣工業、加里工業等)の社會化的管理等の實例は勞働者階級の實力が資本主義の最後の牙城に迄迫り來つた事を切實に語るのである。米國には社會主義がないと言はれたのはもう二十年も前の夢である。同國の鐵鋼業は全世界で一番繁榮し、且つ資本家の協働的大團結が最も鞏固な產業である。其の頭首なるグーリイ氏は最も完全な溫情主義の實行者で、其他どの會社でも概して景氣がよいから色々な勞働者に對する施設をやつて居る。此の巨城にも民主的の波濤が押し寄せて來た。一九一九年から二〇年に亘つて大規模に行はれた労働組合期成の罷業は幸か不幸か失敗に終つたが何時此次の激浪がやつて來るかも知れぬ。戰爭は一方に少數の企業者の手に巨額の富と事業とを集中せしむると同時に其富の支配權に對して干渉する社會力を擡頭せしめた。

(三) 科學と工業との融合

第三の傾向は科學と工業との融合である。是れは今更ら始まつた事ではない。獨逸の產業が勃興したのは全く科學的研究が充分產業界に浸透した結果だと言はれる。鐵工業にても最近に英國邊りで問題とされる燃料經濟組織の問題の如きは既に二、三十年前より解決されて居る。米國に始まつて各國に宣傳される科學的管理の主張も亦同一趣旨の思想である。

英國の鐵工業は最も舊き傳説を誇つて居るだけ、作業方法等も隨分非科學的と言ふ非難がある。然し戰爭中の經驗が強く科學的研究の必要を感じしめたので、最近では舊設備を破壊したり、研究所を建設したり、標準規格を制定したり、著しく獨、米の長所を採用するに努めて居るさうである。工業教育の改善が亦熱心に論議されて居る。教養ある立派な技術家が中心となつて働くかねば衰退に傾いた工業を支持する事

は出來ないと言ふ主張が屢々聞かれる様である。獨逸に於ては工業勞働者四十人に就き一人の工學士が指揮して居るが、英國ではやつと五百人に一人の割合だと言ふから無理もないと思ふ。英國產業の不振を關稅制度や金融組織に歸して論ずる人もあるが、それは本末を逆にした議論である。關稅も投資等の行はれる場合には正當な防衛手段として必要はあるが、夫れは謂はゞ「繁榮」の容器であつて、内容ではない。金融上の援助も大切ではあるが、先づ企業の成功する見込みが出來た上でなくては徹底的な融金が出来るものではない。獨逸の大銀行と工業の關係に就ても畢竟工業家が先づ科學的經營によつて、成功し得る可能性を示したからこそ資金の融通も徹底的に行つて失敗しなかつたのである。要するに産業繁榮の主幹的要素は科學思想の普及なのである。此考へが今、先進國の新しき競爭原理として研究されて居る。然し他の多くの場合と同じく此問題も現今の制度では大企業の發達を俟たねば解決出來ない否孤立的對立より協働的組織への進展傾向其者が又科學的思惟の要求なのである。

(四) 本邦鐵工業の急務

以上最近の先進國の傾向を傳へた序に頭を回らして本邦鐵工業の現情を一瞥して見様か轉た寒心に堪へざるは筆者のみではあるまい。科學的經營の研究は沈滯卑屈の空氣の壓迫の下に全く捨てゝ顧みられない。合同談さへ個人的打算の狹隘なる障壁に妨げられて既に逡巡數ヶ年を経たが一向進展せる模様もない。偶々未曾有の大震災に遇ふも其復舊材料は低廉なる外國品の輸入に俟たねばならぬ有様である。何にが故に企業心はかくも萎靡して振はないのであるか。自然の罪か人の罪か。改めて筆者は此愚問を敢て提出せざるを得ぬを悲しむ。

◎相場表

(特記せるもの、外は
總て三月十五日調)

銑
鐵 東京 水橋商店

(一
頓
三
付)

鐵
與
鋼
第
十
年
第
三
號

寸寸寸寸一九八七六五四三二二一
分分五
六四二一寸分分分分分分半分厘
スイツル 丸 四三 三三二寸 三二二 二寸寸寸寸 寸寸寸一 一
时 半时寸六 时寸时 寸八六四二 六四二寸 时 二

七六五 二二寸寸寸一八七六五四三 スイツル 平二二二寸寸寸一九八七六五四三二二
分 分 分 四寸六四二寸分分分分分分 ル 鐵八四寸八六四二寸分分分分分分厘分
二 分 厚 一 分 厚 同 角三三三三二二二二寸
スイツル 鐵八四二寸八四二寸八 同

五五五 二八八	六六六六六六六六七 四四四四四七七四五四八〇付	十貫目二付	五五四四四四五五四四四四五五五六 〇〇七七七七二九七七七八五六八二圓	貫目二付	五四四四五四五四五 〇八五八〇八〇六六
------------	----------------------------	-------	---------------------------------------	------	------------------------

二寸寸寸一 五四三三二二二 寸寸寸一 二二寸寸寸一八 二二寸寸寸一八七六五四 三二二二寸寸寸一八
寸八四二寸 寸寸二寸八四寸六四二寸 八寸六六四二寸分 四寸六四二寸分分分分分 二八四寸八六四二寸分
六 分 五 四 三 分 分 分 分 分 厚 厚 厚 厚

四四四五五 五五四四四四四 四四四四 四四五五
八八八三三 ○八八八九八八八八 八八七八八八八 七七八八八四八〇五 五五四四四四四四
八八八三三 ○八八八九八八八八 八八七八八八八 七七八八八四八〇五 五五四四四四四四

三三二一同	七六五四三三二二一八五同	五四三三二二一八七五	鋼	七六五四三	鐵	五四三三二二二
分 分	分 分	分 分 分				
半分半分	分分分分半分半分分厘厘	分分半分半分半分厘厘厘	板	入入入入	板	寸寸六二八四二
(五尺十寸)	(四尺八尺)		(三六物)		(三六物)	

四四四五五 五五五四四四四五四五五
四六五〇 ○〇七七四六五四七三六 四四四五四五五五五五五
七七四五四三二三三三六付 八七六六六 目二
八〇六六六付 八四四四四四四
九八八八八八八

廿廿廿廿廿二十九十十十十十十十九八七六五四三二一
五四三二一十九八七六五四三二一
番番番番番番番番番番番番番番番番番番番番番番

鐵線六七八九一〇一一一二一二一二二寸寸寸寸一八七六
五四五三二二二二寸寸寸寸分分分

五四五三三三二一〇九八八八七七七六六九九九九
〇五〇五〇〇〇〇〇〇五三〇〇五五〇〇五五五五五五

青紙風印道具用丸角	一分ヨリ二寸四分迄	四分ヨリ二寸四分迄	一分厚各時	黄紙舟印道具石工用丸角	黄紙秤印道具用丸角	黄紙東鄉鋸用平鋼	一分厚各時	板
アメリカ亞鉛	M M C 一號	地流亞鉛上	同	工具鋼厚刃物用鋼	白紙樽印鋸及刃物用	白紙樽印鋸及刃物用	各時	丸角各時
東京	中值	中	中	竹内商店調	百斤ニ付	三三	一八〇〇	一七、五
東京競賣會社調	十貫目付	二五	二五	五五	五五	一四	一六〇〇	四五
新斷切層	千	二四	二五	五〇〇〇	五五	五五	一四	一九
並上鑄鐵	最上鑄鐵	二三	二三	〇〇〇〇	五五	五五	一四	一九
千地	千地	二四	二五	五〇〇〇	五五	五五	一四	一九
鉄ダライ	鉄ダライ	二五	二五	五〇〇〇	五五	五五	一四	一九
銑ダライ	銑ダライ	二五	二五	五〇〇〇	五五	五五	一四	一九
ブリキ	千地	二五	二五	五〇〇〇	五五	五五	一四	一九
引抜鋼管	日本製管株式會社	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六